

# 「記紀・万葉」を施策に活用していくために

—— 奈良県職員のための「記紀・万葉プロジェクト」基礎知識集 ——

## ——目 次——

はじめに 本基礎知識集発刊の趣旨 .....	1
本書の使い方 .....	3
1. 「記紀・万葉プロジェクト」長期展開の考え方 .....	4
2. 記紀・万葉についての基礎知識 .....	6
3. 関連施設・ホームページ .....	16
4. 記紀・万葉を施策に活かすためのヒント .....	17
5. 記紀・万葉を取り扱う際の留意点 .....	24
6. 記紀・万葉プロジェクト検討委員会、同 推進チーム会議 .....	26

平成26年3月改訂

記紀・万葉プロジェクト検討委員会

# はじめに 本基礎知識集発刊の趣旨

## ❖ 2011年2月、「記紀・万葉プロジェクト基本構想」を策定

- 平成24(2012)年は『古事記』が完成して1300年、さらに平成32(2020)年は『日本書紀』が完成して1300年という節目の年にあたります。『古事記』『日本書紀』編纂の地・奈良県では、これらの文献をはじめ本県特有の歴史素材を活用した施策を効果的に推進するため、2010年2月に庁内連携組織「記紀・万葉プロジェクト検討委員会」を立ち上げ、同推進チームを中心に調査、討議、検討作業を進めてきました。
- 2011年2月には、1年間の取組みの総括として「記紀・万葉プロジェクト基本構想」を策定し、これを公表しました。なお、同構想については、プロジェクト推進に当たっての理念、目的、基本的な考え方などをとりまとめたものであり、具体的な事業内容等については、今後も随時発表していく予定です。

## ❖ なぜ、県職員が「記紀・万葉」の基礎知識を？

- ところで、皆さんは『古事記』『日本書紀』『万葉集』と聞いてどのような印象を持たれるでしょうか。特に『古事記』『日本書紀』については、これまであまり親しむ機会がなかった方が少なくないのではないかと思います。実は、推進チームのメンバーの多くもこのプロジェクトを担当するまで『古事記』や『日本書紀』を読んだことがなく、「なんとなく難しそうで敷居の高い書物」との印象を持っていました。
- しかし、本県特有の歴史素材を活用した施策を推進していくためには、『古事記』『日本書紀』『万葉集』などの文献に関する基礎的な理解が必要です。また、はじめの「とっつきにくさ」とはうらはらに、『古事記』『日本書紀』『万葉集』はいずれも、現代にも通じる古代の人々の心の機微や古代の原風景をありありと思い起こさせるような、とても面白い読み物なのです。

## ❖ 「奈良県ならではの」施策展開への第一歩に

- そこで、私たちは職員の皆さんに少しでも「記紀・万葉」への興味を持っていただきたいと考え、この『奈良県職員のための「記紀・万葉プロジェクト」基礎知識集』を作成しています。ぜひお目通しいただければと思います。

- そして、できれば「記紀・万葉」を手がかりに、歴史素材を活かしてそれぞれの担当業務をより効果的に推進する手法をご検討いただき、また、その手法を実際の施策にどんどん活用してほしいと思います。そうした取組みを県内外に効果的に情報発信していくことが、「記紀・万葉プロジェクト」の重要な役割なのです。
- この基礎知識集を、「記紀・万葉」への理解と、歴史を活用した施策検討の第一歩としてお役立ていただければ幸いです。
- なお、この基礎知識集は「記紀・万葉プロジェクト」での現時点までの取組みをとりまとめたものです。今後、より役立つものとなるようバージョンアップしていきたいと思いますので、どうぞお気軽にご質問、ご感想等をお寄せください。皆さんからのご意見をお待ちしております。

記紀・万葉プロジェクト検討委員会

※なお、「基本構想」では、「記紀・万葉」を『古事記』『日本書紀』『万葉集』及び伝承に代表される歴史素材を示す言葉として、『古事記』『日本書紀』『万葉集』という文献を示す「記紀・万葉集」とは区別して用いています。

# 本書の使い方

ここでは、本書の構成を解説し、本書の使い方をお示しします。職員の皆さんが直面している場面に応じて、必要なページをご参照ください。

## 原論編

奈良県で推進している『記紀・万葉プロジェクト』が何を目標に、どんなことをしようとしているのかを解説しています。

### 1. 「記紀・万葉プロジェクト」長期展開の考え方 > P4

定義・目標と長期的展開戦略などを掲載しています。

まず、知識を深めるため・・・

記紀・万葉を活かすために、奈良県として何をしようと考えているの？



## 基礎知識編

県職員として記紀・万葉にちなんだ取組みを推進しようとしても、まずは、記紀・万葉とは何か？を知ることが前提になります。

### 2. 記紀・万葉についての基礎知識 > P6

「記紀・万葉集の概要」を Q&A 形式で知ることができるほか、「受け継がれている伝承」や「県内外のゆかりの地」などを解説しています。

### 3. 関連施設・ホームページ > P16

記紀・万葉について詳しく調べるための情報源となる関連施設や関連するホームページを紹介しています。

具体的な検討をするときに・・・

まずは、記紀・万葉って何かを知ろう！



## 活用編

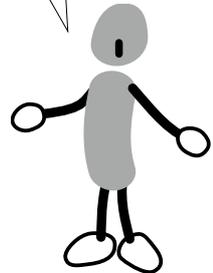
記紀・万葉にちなんだ取組みを推進するため、具体的にはどのように進めたら良いのか、その糸口となる考え方などを掲載しています。

### 4. 記紀・万葉を施策に活かすためのヒント > P17

記紀・万葉を活かした施策として考えられる方向性（何を指すために記紀・万葉の素材を活かすか）を示しています。  
また、先行して実施されている特徴的な事例を紹介しています。

実際やってみるときに・・・

記紀・万葉を施策に活かしてみよう！



### 5. 記紀・万葉を取り扱う際の留意点 > P24

実際に記紀・万葉を活用する場合、注意すべき考え方を示しています。

# 1. 「記紀・万葉プロジェクト」長期展開の考え方

## 1. 「記紀・万葉プロジェクト」の定義

(1) 「記紀・万葉プロジェクト」は、記紀・万葉集に代表される歴史素材を活用した施策を効果的に展開していくものであり、新しい時代に奈良県の存在価値を内外に示すとともに、「本物の古代と出会い、本物を楽しめる奈良」を名実ともに実現していくための取組みである。

(2) 本プロジェクトが目指す「本物の古代と出会い、本物を楽しめる奈良」の実現とは：長い年月をかけて守り伝えられてきた県内各地の様々な歴史的遺産を、奈良県に住まい、あるいは奈良県を訪れる人びとにとって、その真価を十分に理解でき、感動を味わえるものとする事である。

## 2. 「記紀・万葉プロジェクト」の目標

(1) 本プロジェクトでは、東アジアと日本の関係など国際的視点も加味した「古事記」「日本書紀」「万葉集」についての価値意識を醸成するとともに、「記紀・万葉」を実感する地・奈良の受け皿を整備して「記紀・万葉で楽しむ県」「記紀・万葉と暮らせる県」という奈良県の「新しいブランドイメージ」を創出することを念頭におき、

- ① 奈良県が歴史情報の発信のしかたとその味わい方の提案に関するリーダー的存在となる
- ② 歴史素材の多角的な紹介により、奈良県の魅力の再発見、地域の誇りの醸成につなげる
- ③ 奈良県への誘客を促進し、顧客満足度を高める

ことを目標に掲げるものとする。

(2) 記紀・万葉集をはじめとする文献には、日本文化の源流につながる様々な記述があり、ゆかりの地は全国各地に存在する。

それ故、「記紀・万葉プロジェクト」を端緒にして、奈良県のみならず日本列島の様々な地域の人びとの「自分たちの住む地域の魅力再発見」につながることを目指したい。皆が愛着を持ってふるさとのことを語るようになれば、日本はもっと豊かな国になるだろう。本プロジェクトの推進が、閉塞感漂う我が国を元気にするために本県として貢献できるものとなるよう取り組んでいきたい。

### 3. 「記紀・万葉プロジェクト」長期展開の考え方

(1) 2012年～2020年を3つのフェイズに分けステップアップしていく目標設定

#### ①素材の観点

フェイズⅠ:古事記に重点を置く  
 フェイズⅡ:日本書紀や地域ゆかりの文献・伝承に重点を移す  
 フェイズⅢ:フェイズⅠ・Ⅱの集大成的取組

#### ②広がり

フェイズⅠ:記紀・万葉の日本文化における意義について考察  
 フェイズⅡ:より幅広い地域の参画を促し、取組の地理的範囲を拡大  
 古代のみに捉われない、複数の時代に目配りした時間軸の広がり  
 フェイズⅢ:地域の歴史を大切にす機運を全国的に広げ定着させる。たくさんの方々により受け継がれてきた歴史のあることについて感謝し、自分が歴史をつなぐ一員であることの自覚を多くの人々が持つようになる。

(2) 各年度において、次年度からのフェイズの考え方について再検討、必要な軌道修正を行う。

計画年度	2010年度 平成22年度	2011年度 平成23年度	2012年度 平成24年度	2013年度 平成25年度	2014年度 平成26年度	2015年度 平成27年度	2016年度 平成28年度	2017年度 平成29年度	2018年度 平成30年度	2019年度 平成31年度	2020年度 平成32年度	目標が達成されている状態
フェイズ目標 (ステップアップの考え方)	準備期		フェイズⅠ			フェイズⅡ			フェイズⅢ			
年度目標	記紀・万葉プロジェクト基本構想の策定	記紀・万葉プロジェクト始動・プレ事業の実施	古事記を知る	古事記ファンの拡大と定着	より深く古事記と日本の文化について考察する	(例示) 社寺伝承と記紀	(例示) 200年ごとの奈良	(例示) 地域伝承と今			日本書紀完成1300年の機運を活用した日本書紀の面白さの発信	
年度ごとの重点テーマ			古事記編纂1300年の機運を活用した古事記の面白さを発信する 古事記に興味を持ってもらうきっかけの年にする	古事記ブームの盛り上がり継続させ、古事記の持つ文化的価値の再認識につなげる	古事記を楽しむ情報発信手法について一端の完成年とする						日本書紀で奈良を楽しむ情報発信 フェイズⅢの目標を達成する年にする	
キャッチコピー案			古事記ってこんなに面白い!	古事記はとて奥深い!	古事記を味わい、楽しもう!						日本書紀はとて面白い!	
	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	
	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	
	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	
	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	
記念年			古事記完成1300年	耳成観光案内所オープン 風土記編纂の命1300年		春日大社式年造替 図書情報館10周年	春日大社式年造替		橿原考古学研究所80周年		日本書紀完成1300年 藤原不比等逝去1300年	
取り組み内容	(1) 情報発信(ソフト事業)	①全体広報(親しみやすい情報発信の定期・継続実施)	記紀・万葉で奈良を楽しむ情報発信、記紀・万葉の日本文化における意義についての発信			県民の方に、自分の住まう場所の歴史伝承を自ら発信してもらうような仕組みを充実			フェイズⅠ・Ⅱの集大成的情報発信			
		②市町村・他府県の歴史関連情報・取組情報の広報支援	市町村・他府県の地域情報を集約して発信 特に、他県と連携した取り組みの展開について継続検討			左記の発信に加え、県内小・中学校などの郷土学習成果をはじめ、地域伝承の情報発信を充実			フェイズⅠ・Ⅱの集大成的情報発信			マニア向け、若者向けなど、色々な層の方の求めに応える形で記紀・万葉や歴史の紹介ができています。 “ソフト事業の仕組みが整っている状態”
		③イベント(一般参加型事業)による情報発信	年度ごとのテーマに合わせてイベントを実施。特に高校生を対象とした事業を中心することで次世代の地域への目覚めの気運を醸成 橿原博物館、万葉文化館、図書情報館等において、記紀・万葉をテーマにした展示を実施			集客のみならず、地域の魅力の再発見や郷土愛の醸成につながるよう、県内全域でのイベントの実施をより強く意識して行う			地域の歴史を大切にす機運を全国に広めるイベントを実施			
	(2) 歴史を体験できる地・奈良の受け皿整備(着地整備)	①県内どこでも歴史を味わえる案内板整備	案内板を整えるための情報収集と計画づくり			案内板設置			案内板整備を完了			県内どこでも歴史を味わい楽しむことができる。 “案内板・人による案内の仕組みが整っている状態”
		②VG活動を中心とした、人が人に地域の歴史を伝える仕組みの充実	VG(ボランティアガイド)活動を中心とした、人が人に地域の歴史を伝える仕組みを全国に広げるイベントを実施			左記を継続実施			人による案内の仕組みが充実			
	(3) 情報の収集と提供	①歴史文献活用のための基礎情報の収集と整理	年度ごとのテーマに合わせた情報収集整理と、それらの事業者・庁内各課への情報提供			カテゴリーを替えて情報収集を継続するとともに、「歴史情報活用課」的な組織の立ち上げを検討			県職員がどの行政分野においても、地域の歴史に配慮しながら業務を行えるような取り組みを継続			県庁職員がどのような業務を担当していても地域の歴史を味わいながら業務を進めることができる仕組み、組織が整っている。 地元の事業者の方がどのような職種においても地域の歴史を大切にす事業展開を検討するようになっている。
		②庁内各課・事業者へ「記紀・万葉」と関連つけた事業展開のための情報を提供										

## 2. 記紀・万葉についての基礎知識

### (1) 記紀・万葉集の概要

- ここでは、『古事記』『日本書紀』『万葉集』について、Q&A方式でそれぞれの概要を紹介します。回答者は、推進チームのメンバーでもある、県立橿原考古学研究所附属博物館の今尾学芸課長と県立万葉文化館の井上主任研究員です。なお、これは奈良県のウォーキング・ポータルサイト「歩く・なら」から「記紀・万葉でたどる奈良」※の「基礎知識」を転載したものです。

※「記紀・万葉でたどる奈良」については13ページで紹介しています。

#### 記紀編

### 『古事記』『日本書紀』Q&A

回答者：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・今尾文昭学芸課長

#### Q1 ずばり、『古事記』とは？

A 現存する最古の書物。ふつうは「こじき」ですが、「ふることぶみ」と読む説もあります。国土の創成神話から推古天皇までの3巻構成となっています。

#### Q2 なぜ作られたのですか？

A 『古事記』序文に編纂目的が記されています。それによると、

“諸家に伝わる記録や神話・伝承・歌謡に間違いが多く、虚偽も加わっている。天武天皇はこれら「邦家の経緯」（国家行政の根本組織）、「王化の鴻基（こうき）」（天皇徳化の基本）である『帝紀』（皇室の記録）と『旧辞』（神話・伝承・歌謡）を考究して、正しいことを後世に伝えるよう命じた。これをもって編纂事業が始まった”とあります。

#### Q3 『古事記』に関わった、主なキーパーソンを教えてください。

A 序文に記された人物は、稗田阿礼（ひえだのあれ）、太安万侶（おおのやすまろ）、天武天皇、元明天皇です。

#### Q4 編纂はどうやって進められたのですか？

A まず天武天皇は、側近で聡明な舍人（とねり：下級官人）の稗田阿礼に『帝紀』『旧辞』を暗誦させたのですが、時間が経過しても未完成のままでした。それを元明天皇が和銅4年（711）9月18日、阿礼が誦む勅語の『旧辞』の選録を太安万侶に命じ、翌年5年1月28日になって献上されたものです。もっとも、古事記序文の評価をめぐるっては、成立年次や信憑性をめぐって論議が続いています。また稗田阿礼の暗誦も、文字化された資料の読み方について習熟する内容だったと推測されており、天武期段階である程度の編纂作業が行われていたのではないかとする見方もあります。

### Q5 『日本書紀』を一言でいうと？

A

最初につくられた勅撰（天皇の命令により撰ばれた）の史書。  
神代と神武天皇から持統天皇11年（697）までを、本文30巻、系図1巻（現在、亡失）に記しています。

### Q6 どうやって編纂されたのですか？

A

編纂開始については、自ら本書中に記されています。  
『日本書紀』天武天皇10年（681）3月17日条に、天武天皇が川嶋皇子・忍壁皇子ら12人に『帝紀』と上古の諸事（旧辞と同義か）を記定（異説を検討して史実を確定して記録する）するように命じたことに始まるとあります。

### Q7 いつごろ完成したのですか？

A

奈良時代です。  
『続日本紀』養老4年（720）5月21日条に、これより先に舍人親王が勅（みことのり）を奉じて編修し、完成、奏上したと記されています。

### Q8 編纂の方針などに特徴はありますか？

A

『古事記』の編纂作業との関係は不明な点が多いですが、『日本書紀』の編纂にあたっては、『帝紀』・『旧辞』、諸氏族の記録、寺院の縁起、中国史書、百済関係記録などが参考とされ、記事には漢籍による潤色も認められます。  
なお、『日本書紀』という名称ですが、『続日本紀』に「日本紀」と表記されることから、これが本来の名かとされる一方、中国史書には書紀の名称はみられません。  
当時の「日本」として国威を示すためにも、紀伝体（きでんたい）の「書」が求められたものであって、本来は「日本書」ではなかったかとする説もあって、定説をみません。

### Q9 影で政治を動かしていたといわれる藤原不比等は、『日本書紀』の編纂にも関わっていたのですか？

A

初めての正史編纂、しかも国号「日本」を東アジア諸国のとりわけ唐に認めさせようとした時代であったことから、奈良時代前期のトップの政治家である不比等の関与を想定したいところですが、考古学の方法でそれを直接、検討することはできません。

### Q10 「記紀」に記されている内容は、どれくらい事実として確認されているのですか？

A

考古学の成果と「記紀」の記事を直接、比較できる事例は稀です。  
大きく報道された例をあげると、2010年9月に明日香村教育委員会によって発掘調査された牽牛子塚（けんごしづか）古墳は、

- 埋葬施設が合葬を意図した二部屋の構造をもつこと
- 八角墳で畿内では7世紀代の天皇に限定的に採用された墳形とみられること
- 7世紀後半に採用された石材（二上山産出の凝灰岩）による埋葬施設である
- 7世紀後半に高位の人物に採用された棺（夾紵棺：きょうちよかん）があること

などといった発掘・調査成果と、

- 『日本書紀』天智天皇6年（667）条に齊明天皇が妹の間人皇女（はしひとのひめみこ：孝徳天皇皇后）と合葬されたという記事があること
- 陵名が「小市岡上陵」（明日香村から高取町にかかる丘陵上）と記載される
- 想定時期にはほかの有力候補者が見当たらないこと

などといった文献史料から、斉明陵であると考えます。ようやく考古学成果と「記紀」の記事内容がほぼ合致したといえます。それでも『続日本紀』（『日本書紀』につづく勅撰史書）文武天皇3年（699）条に斉明陵の改たな造営記事があって、これをどのように考えるか、問題が残ります。

牽牛子塚古墳の奈良県における最初の報告は1913年（大正2）ですので、ほぼ100年も前のこと。被葬者に関する研究には長い年月がかかります。

### Q11 奈良にしかない「記紀」の魅力とは何でしょう？

A

「記紀」の編纂場所は奈良です。

例えば、天武天皇が『日本書紀』編纂を命じるために川嶋皇子らを召した宮殿（『日本書紀』には飛鳥浄御原宮の「大極殿」とある）そのものが発掘調査されており、高市郡明日香村岡に所在しています。

しかも、当時の景観（山や川、丘陵）が、都市化をまぬがれて保存されてきました。

宮殿は地下に埋もれていますが、それも悠久の時間経過を気付く仕掛けとなっています。

孝徳天皇の難波宮は大阪市街地、天智天皇の近江大津宮は大津市街地にあることを思うと、歴史に即した古代の「体感空間」が、奈良にはあります。

この恵まれた歴史資産を活かしていきたい。「記紀」の記事はその入り口を示す道標となります。

## 万葉編

### 『万葉集』 Q&A

回答者：奈良県立万葉文化館・井上さやか主任研究員

### Q1 そもそも『万葉集』とは何でしょうか？

A

日本に現存する最古の歌集です。約1400年～1300年くらい昔の歌が載っています。

全部で20巻あり、天皇や貴族だけでなく、兵士や農民まで、いろいろな人々が詠んだ歌が収められています。

### Q2 全部でどれくらいの歌があるのですか？

A

約4,500首です。

『万葉集』には、奈良県内に政治や文化の中心地があった時代の歌が収められています。奈良の地名が詠みこまれた歌は、約900首とも。また、奈良県内で詠まれたと思われる歌をあわせると、大半が該当します。

まさしく、奈良は“万葉のふるさと”です。

### Q3 『万葉集』をよむ楽しみとは？

A

『万葉集』には、季節（自然）、愛や恋、旅などをテーマにしたものから、笑いを誘う滑稽なものまで、実に多彩な歌があります。

その素朴で大らかな歌風は、現代に生きる私たちに親しみと共感を与えます。

人が抱く感情は、現代も1300年前も同じ。

社会通念や科学技術の発達具合こそ違いますが、「好き・嫌い」や「辛い・嬉しい」といったその気持ちの根っこは変わっていません。

そう考えると、これまでかけ離れた存在だった古代がとても身近に感じられ、生きるヒントを教えてもらうこともしばしばです。

『万葉集』は、私たちの普段の生活の中にも息づいています。  
例えば、これまでただのバス停の名前だと思っていたところが、万葉歌に詠まれた地名であることを知って、「ここが、あの剣の池か！」などと驚くことも多々あります。  
また、「ここを大伴家持が歩いたかも知れない」。そんなふうに想像を膨らませながら奈良を歩くと、楽しいですよ。  
これまで気に留めなかった日常のディティールが“全く新しいもの”へと認識されてゆく。それもまた、『万葉集』の魅力です。

**Q4** 古典が苦手です。取っ掛かりとなる、ユニークなものがあれば教えてください。

A

おすすめは「万葉仮名」です。

『万葉集』はまだ平仮名がない時代に書かれたので、漢字で表記されていました。

「万葉仮名」といって、漢字の音を仮名と同じようにして使っていたのですが、例えば「世の中」を「余能奈可」と書いていました。そして、この中から、今の平仮名が生まれています。ではここで問題。「二八十一」と書いて、何と読むでしょう？

正解は、「にくく（憎く）」。「八十一」を掛け算で言い直すと「九×九」、つまり「くく」となるからです。まるで、なぞなぞみたいですね。

県立万葉文化館には、これら万葉仮名をはじめ、楽しみながら万葉集を知ってもらう「万葉クイズ」を用意しています。

これをきっかけに、『万葉集』の世界に足を踏み入れたという方もいらっしゃいます。

**Q5** 「記紀歌謡」、「初期万葉」とは？ 『万葉集』とどう違うのですか？

A

「記紀歌謡」とは、『古事記』や『日本書紀』に採られた上代の歌謡のことで、物語の中にある歌です。

それだけに、「記紀」が記すエピソードごと味わう面白さがあります。

一方、「初期万葉」は文字通り、万葉集の中でも初期に作られた和歌のことで、歌自体が主役。「記紀歌謡」とは逆に、想像を膨らませて読む楽しみがあります。

耳慣れた「5・7・5・7・7」の五七調の歌が多く、理解もしやすいかもしれません。

**Q6** 万葉歌碑は、歌が詠まれたところに立っているのですか？

A

必ずしも、「万葉歌碑のある場所＝そこで歌が詠まれた」というわけではありません。その地名が現在のどこにあたるのか、そもそも地名と確定できるのかなど、不明な場合もあります。昭和のころ、奈良の豊かな自然を守ろうと、犬養孝氏をはじめとする景観保全運動が起こり、その一環として万葉歌碑が立てられることもあったようです。

これらの尽力があったおかげで、今も私たちは、昔ながらの美しい景観を目にすることができます。万葉歌碑を見つけたら、当時の地元の方々の思いまでも味わう。そういった夢の追い方もあると思います。

**Q7** 万葉の世界に浸るためのアドバイスを。

A

その歌が詠まれた風景の中に身を置き、歌をよみ返すとよいでしょう。歌には、感情が投影されています。ある景色を詠んでいても、それはあくまでその万葉歌人が感じた情景。同じ景色でも、嬉しいときには風情があると感じ、辛いときには寂しく目に映ったに違いありません。ウォークルートを歩く際は、そういった万葉歌人の“心の豊かさ”を、体全体で感じ取ってみてはいかがでしょうか。現代にも通用する、生きるヒントが見つかるかもしれません。

- 記紀・万葉集の編者、完成時期、内容等は下の表のようにまとめることができます。

	古事記	日本書紀	万葉集
編纂者	稗田阿礼が語り伝えた『帝紀』『旧辞』を太安万侶がまとめる。	川島皇子、舎人親王(とねりしんのう)など。	勅撰説、橘諸兄説があるが、大伴家持説が有力である。
完成時期	和銅5(712)年	養老4(720)年	天平宝字(759)年以後
巻数・表記	上・中・下全3巻。日本語重視の変体漢文で執筆。	全30巻 系図1巻(系図は失われている)。漢文で執筆。	全20巻。全文が漢字だが、歌は日本語の語順で書かれた「万葉仮名」で表記。
内容・特徴	日本に現存する最古の書物。「ふることぶみ」と読む説もある。国土の創成神話から推古天皇までを記す。	日本で最初につくられた勅撰の史書。神代と神武天皇から持統天皇11(697)年までを記す。	日本に現存する最古の歌集。約1400年～1300年前の歌を収録。天皇や貴族だけでなく兵士や農民まで、いろいろな人々が詠んだ歌がある。
収録されているストーリー等	例) ● <u>ヤマタノオロチ</u> 出雲神楽で有名なスサノオのオロチ退治。 ● <u>やまとは国のまほろば</u> 各地を転戦した古代の英雄ヤマタケルが死を前にして詠った大和を讃える望郷の歌。 ● <u>因幡の素(しろ)うさぎ</u> 後の大黒様であるオオクニヌシと素うさぎの物語。 ● <u>五穀と養蚕の起源</u> スサノオに殺されたオオゲツヒメの身体から蚕・稲・粟・小豆・麦・大豆が生じた。	例) ● <u>聖徳太子</u> 十七条憲法の制定や小野妹子の隋派遣など。10人の話を同時に聞き分けた等の伝説も。 ● <u>大化の改新</u> 中大兄皇子(後の天智天皇)らが蘇我入鹿を暗殺し、新政権を打ち立てた事件。 ● <u>壬申の乱</u> 天智天皇の息子(大友皇子)と弟(大海人皇子)が皇位継承をめぐって争った古代最大の内乱。	例) ● <u>春過ぎて 夏来るらし 白たへの衣乾したり 天の香具山</u> (持統天皇) 地名を詠みこんだ歌。 ● <u>香具山は 畝傍ををしと 耳梨と相あらしひき 神世より かくにあるらし 古昔も 然にあれこそ うつせみも 孀(つま)を あらしひらしき</u> (中大兄皇子) 大和三山に仮託した恋の歌。 ● <u>東(ひむがし)の 野にかぎろひの立つ 見えて かへり見すれば 月かたぶきぬ</u> (柿本人麻呂) 大宇陀の狩場での日の出の情景を描写した歌。 ● <u>父母が 頭かき撫で 幸くあれて いひし言葉ぜ 忘れかねつる</u> (防人歌) 東国方言が使われた庶民の親子情愛の歌。

## (2) 伝承について

### ❖ 記紀に取り入れられた民間伝承

- 記紀・万葉プロジェクトでは、地域に伝わる「伝承」も対象としています。例えば「やまとは 国  
のまほろば」の歌は、もともと大和の農村の生活に結びついた国見の歌であったものが、『古事記』  
では景行天皇の皇子ヤマトタケルの歌とされ、『日本書紀』では景行天皇の歌とされ、物語の場  
面に巧みに組み込まれています。これは記紀の物語に民間の伝承が利用された代表的な例ですが、  
記紀には民間の歌や伝承を、物語の興味を増すために編者によって取り入れられたと考えられて  
います。

### ❖ 伝承も奈良の歴史資源

- 奈良は「語りの文化」の発祥地として、さまざまな伝承が伝わってきたとされます。記紀に関連す  
る伝承・民話はもちろん、庶民が担ってきた生活文化が民話の断片の中に残っており、次代に語  
り継いでいく必要があります。「伝承」も奈良県の歴史資源の1つとして活用していくことが望ま  
れますが、さらに調査成果の収集や整理に努めていくことが課題です。

### ❖ 場所や事物にまつわる伝承

- 奈良県には東吉野村に残る「魚見石」のように、記紀や万葉集に記されたエピソードが地域の事物  
と結びつき、民間伝承として今日まで伝えられている場合も少なくありません。こうした現存す  
る場所や事物にまつわる伝承については、身近な年長者などの口から聞き知った経験を持ってい  
る人も多いはずで



コラム

#### 学識者からのアドバイス — 伝承の面白さ・取り上げ方 —

- 物語の中でも、特に口で伝わるものは変容していくので面白いですね。伝承（昔話や伝説）  
は、古事記がそうであったように、もともとは口で伝えられてきました。お話とは本来そ  
ういうものなのです。
- 例えば三輪山は、昔話の代表的な形のひとつ「異類婚姻譚（いるいこんいんたん）」（人間  
と違った種類の存在と人間とが結婚する説話）のメッカです。大物主の説話から、「鶴の恩  
返し」など様々なバリエーションの昔話が生まれました。そのような広がりがどれだけ、  
どのようにあるのかということに目を向けてみるのも面白いのではないのでしょうか。

### (3) その他「記紀・万葉」関連文献

#### ◆ 記紀・万葉集を補完するサブテキスト

- 記紀・万葉プロジェクトでは、基本的に『古事記』『日本書紀』『万葉集』の3つの文献を中心に据えています。ほかにも『風土記』『懐風藻』『日本霊異記』など、記紀・万葉集とほぼ同時代もしくは少し後代に成立した重要な文献がいくつかあります。こうした文献を「サブテキスト」として用い、記紀・万葉集に記された時代やできごと、人物等に異なる角度から光を当てることによって、「記紀・万葉」の世界はより立体的で豊かなものになるはず。

#### ◆ 風土記 (ふどき)

- 風土記とは地方の歴史や文物を記した地誌を意味しますが、一般には和銅6(713)年の元明天皇の詔により各地の国庁から撰進された報告文書を指し、他の風土記と区別して「古風土記」とも称します。地方の地勢や産物、地名の由来、説話伝承などを記録したものです。現存しているものは常陸、播磨、出雲、肥前、豊後の5国で、その他は逸文(『釈日本紀』等の引用文)しか残っていません。『出雲国風土記』はほぼ完本が残っており、その中に「国引き神話」など記紀と異なる神話が収録されています。

#### ◆ 懐風藻 (かいふうそう)

- 奈良時代後期に成立した、日本最古の漢詩集です。序文には天平勝宝3年(751)に成立し、先賢の遺風を忘れないよう「懐風」と名づけたと書かれています。「藻」は美しい詩文のことです。撰者は淡海三船(おうみのみらね：大友皇子の曾孫)など諸説がありますが、的証がなく、撰者未詳とされています。近江朝(7世紀後半)以後約80年間における、日本の上流社会の知識人64名の漢詩約120首を収録しています。

#### ◆ 日本霊異記 (にほんれいいき、にほんりょういき)

- 奈良時代末期～平安時代初期に成立した、日本最古の説話集です。正式名は『日本国現報善悪霊異記(にほんこくげんほうぜんあくりょういき)』で、選者は奈良薬師寺の僧、景戒(けいかい、きょうかい)です。序文には、仏教の因果応報の理を説くために日本の古記・伝承から実話を収集したと書かれています。奈良時代の話を中心に、全3巻に約120話を収録しており、最も古いものは雄略天皇の時代の話とされています。

#### ◆ 大和名所図会 (やまとめいしよすえ)

- 寛政3年(1791)、秋里籬島著(あきざとりとう)、竹原信繁(たけはらのぶしげ)の挿絵の名所古跡の図会地誌。全6巻、大和国号、奈良、平城の皇城から吉野奥の善鬼川に及び。活字本は『大和名所図会』(歴史図書社)、『日本名所風俗図会』九奈良の巻(角川書店)など。

## (4) 県内のゆかりの地

### ❖ 県内全域に分布する「記紀・万葉」ゆかりの地

- 奈良県内には、ほぼ全域・全市町村に記紀・万葉ゆかりの地が分布しています。普段の外出の際にちょっと気をつけて路傍を見るだけでも、身近なところにきっとゆかりの地が見つかるはずです。また、古代の遺跡・遺物や万葉歌碑などをテーマにさまざまなガイドマップが作成されており、それらを参考にすればエリアやジャンル、目的等に応じてゆかりの地を探することができます。

### ❖ 歩く・なら「記紀・万葉でたどる奈良」

- また、奈良県のウォーキング・ポータルサイト「歩く・なら」でも新たに「記紀・万葉でたどる奈良」のページを開設し、記紀・万葉ゆかりの地をめぐるルートを紹介しています。ぜひ一度ホームページをご覧ください。ダウンロードした地図を片手に県内各地のゆかりの地を訪ねてみてください。そして、記紀・万葉の世界を体感するとともに、政策形成のヒントを探してみてくださいればと思います。

「記紀・万葉でたどる奈良」ホームページ <http://www.pref.nara.jp/miryoku/aruku/kikimanyo/>

## ❖ なら記紀・万葉「名所図会 ー古事記編ー」

- 「記紀・万葉プロジェクト」の情報発信サイト「なら記紀・万葉」では当然のことながら様々な観点からの情報提供を行っていますが、平成24年1月に発行して好評を得た、なら記紀・万葉「名所図会 ー古事記編ー」につきまして電子ブックでご覧いただけるようにしておりますので、ぜひ一度ホームページをご覧ください。奈良を舞台とした5つの物語&古事記と出かける7つのテーマで構成されています。

なら記紀・万葉「名所図会 ー古事記編ー」ホームページ

<http://www.pref.nara.jp/miryoku/narakikimanyo/zue-kojiki/>

## ❖ 「なら記紀・万葉名所図会ー古事記こども編ー」

- 2012年は『古事記』完成1300年の節目の年であることから、子どもたちに「古事記」編纂の地・奈良県に、今以上に興味を持ってもらい、郷土への愛着心を高めてもらうため、小学校高学年～中学生を対象に、導入や説明文に漫画を挿入し、親しんでもらいやすいガイドブック「なら記紀・万葉名所図会ー古事記こども編ー」を作成しました。

「なら記紀・万葉名所図会ー古事記こども編ー」

<http://www.pref.nara.jp/miryoku/narakikimanyo/kojikikodomo/ebook/index.html>

## ❖ 「なら記紀・万葉名所図会ー古事記・旅編ー」

- 県内の古事記ゆかりの地を7つのカテゴリーに分け、「古事記あじわいスポット」として紹介しています。実際にその場所を訪れることができるように、詳細な地図を掲載しています。

「なら記紀・万葉名所図会ー古事記・旅編ー」

<http://www.pref.nara.jp/miryoku/narakikimanyo/zue-kojiki-tabii/>

## ❖ 「なら記紀・万葉名所図会ー古事記神様・人物入門編ー」

- 本ガイドブックは『古事記』に登場する神々や人物のエピソードを中心に掲載した、わかりやすく楽しい『古事記』入門書であり、若い世代の方々に『古事記』の魅力を発見していただけるよう作成しています。

「なら記紀・万葉名所図会ー古事記神様・人物入門編ー」

<http://www.pref.nara.jp/miryoku/narakikimanyo/zue-kojiki-kamisama/>

## (5) 全国各地のゆかりの地

### ❖ 全国各地に分布する「古事記」ゆかりの地

- 日本全国には、さまざまな古事記ゆかりの地が分布しています。このうち、各地で広く知られているゆかり地に加え、全国の観光ボランティアガイド団体から寄せられたゆかり地を掲載した『古事記ゆかり地マップ』を作成しました。

(HP アドレス : <http://www.pref.nara.jp/miryoku/narakikimanyoyukaritimapi/>)



■ 詳しくは記紀・万葉プロジェクト公式ホームページをご覧ください。



「なら記紀・万葉」ホームページ <http://www3.pref.nara.jp/miryoku/narakikimanyo/>

### 3. 関連施設・ホームページ

- 県内の文化施設等では、ホームページで「記紀・万葉」に関する各種資料・情報を提供しているほか、企画展示や講演会など多様な普及活動を実施しています。そのうち主要なものをいくつか紹介しますので、「記紀・万葉」に関する相談窓口や情報源としてご活用ください。
- 図書館では最新刊から古典まで、様々なジャンルの書籍が紹介されていますので、この機に「記紀・万葉」についてより詳しく知りたいと思われた方は、NP スクラムネットを利用いただき、ぜひ参考にしてください。

NP スクラムネットの詳細については、下記のページをご覧ください。

<http://intraweb.office.pref.nara.lg.jp/ky-tosho/index.html>

- 施設やホームページ、書籍等の情報については今後充実させていく予定です。お薦めの「記紀・万葉」に役立つホームページや施設、書籍等があればご紹介ください。

#### 「記紀・万葉」関連施設

- **奈良県立万葉文化館** <http://www.manyo.jp>  
TEL:0744-54-1850 / FAX:0744-54-1852
- **奈良県立図書館情報館** <http://www.library.pref.nara.jp>  
TEL:0742-34-2111 / FAX:0742-34-2777
- **奈良県立橿原考古学研究所、同附属博物館** <http://www.kashikoken.jp/>  
TEL. 0744-24-1101 / FAX. 0744-24-6747
- **奈良県立民俗博物館** [http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-1508.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1508.htm)  
TEL:0743-53-3171 / FAX:0743-53-3173
- **奈良文化財研究所、同飛鳥資料館** <http://www.nabunken.go.jp/>  
(本館) TEL. 0742-30-6733 / FAX. 0742-30-6730 (飛鳥資料館) TEL. 0744-54-3561 / FAX. 0744-54-3563

#### 「記紀・万葉」関連ホームページ

累計アクセス件数 300 万件  
を超える人気サイト

- **歩く・なら** (奈良県ならの魅力創造課) <http://www3.pref.nara.jp/miryoku/aruku/>  
県内のウォーキング・ポータルサイト。推奨ルートとして「古道・古街道」「陵墓・古墳を訪ねて」「伝記・伝説・ものがたりの道」など、記紀・万葉に関連するルートマップを紹介。
- **リサーチ・エンジン on 奈良** (県立図書館情報館) [http://www.library.pref.nara.jp/search/google\\_coop.html](http://www.library.pref.nara.jp/search/google_coop.html)  
奈良の歴史・文化関連 Web 情報をキーワード検索できる。ほかに同館ホームページ「ふるさとコーナー」から『大和名所図会』等館所蔵古文書・古絵図のデジタル画像が閲覧可能。
- **小・中学生の勉強室** (県立橿原考古学研究所附属博物館) <http://www.kashikoken.jp/museum/school/school.html>  
子ども向け学習教材。古墳、埴輪、飛鳥京跡、木簡などをテーマとしたワークシートのほか、「考古学おもしろブック」に古墳時代、奈良・飛鳥時代についての解説がある。
- **大和路アーカイブ** (奈良県ビジターズビューロー) <http://yamatoji.nara-kankou.or.jp>  
「寺社・古墳」のカテゴリーで、エリア別に県内の御陵、墓、古墳・塚を写真と解説で紹介。
- **奈良の魅力映像 BOX～奈良の魅力まるごとガイド～** (奈良県広報広聴課) <http://www.miryoku.pref.nara.jp/>  
記紀・万葉ゆかりの寺社や古道、祭礼・イベント等を動画で紹介。エリア、カテゴリー、季節・月別検索可能。

## 4. 記紀・万葉を施策に活かすためのヒント

- 記紀・万葉プロジェクトは、「記紀・万葉集に代表される奈良県特有の歴史素材を活用した行政施策を効果的に展開」する取組みと定義されています。ここでは、「歴史素材を活用した行政施策」を具体的にイメージしていただくために、歴史素材を活用した施策・事業事例を紹介します。

事例 1	「記紀のみち」	ならの魅力創造課	P18
事例 2	「大和浪漫回廊 ～万葉集・古墳を巡る～」	道路建設課	P19
事例 3	「『記紀・万葉』 県民活動支援補助金」	ならの魅力創造課	P20
事例 4	旅行会社による旅行商品の造成	民間事業者	P21
事例 5	他県と連携したイベントの実施	民間事業者、行政	P22
事例 6	地元企業による関連商品の造成	民間事業者	P23

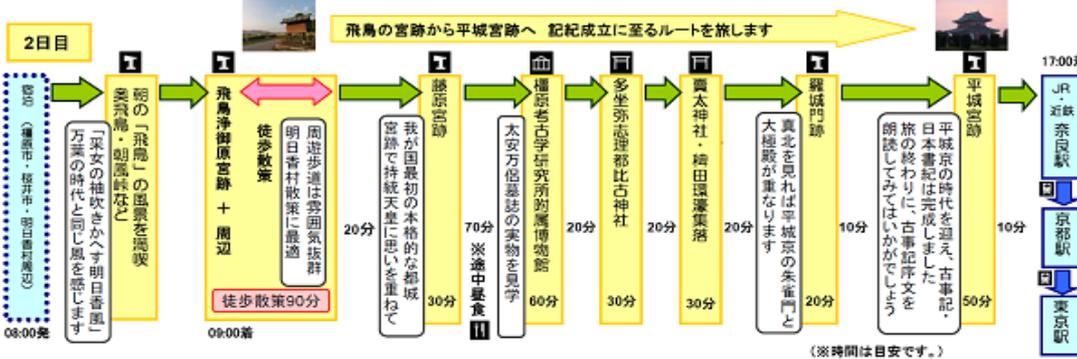
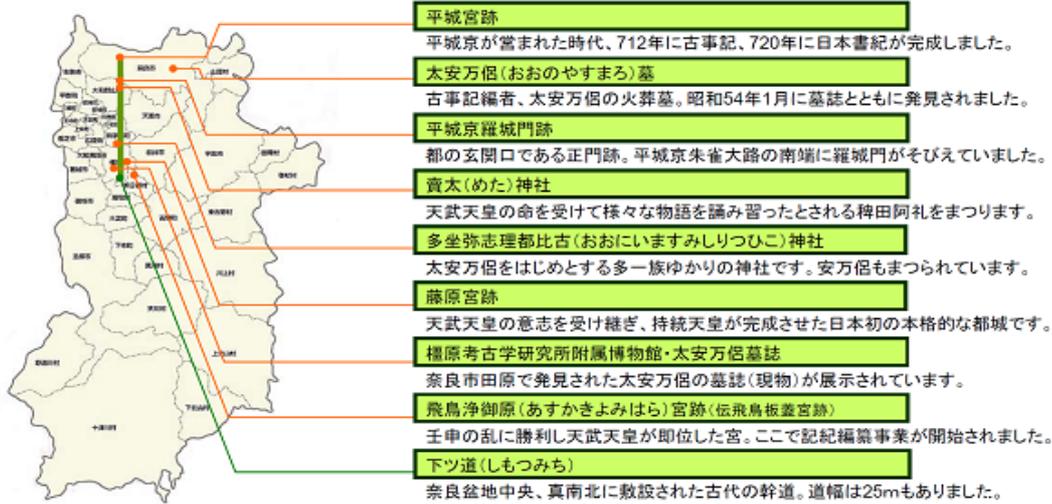
# 事例1 「記紀のみち」 ならの魅力創造課

- 「基本構想」に記紀・万葉を活用した事業展開例として掲載した、ならの魅力創造課による「旅行商品化に向けてのモデルコース『記紀のみち』」を事例としてご紹介します。「記紀のみち」は、今回のプロジェクトのテーマに直接関わるコースで、「記紀編纂を旅する」みちとも言えます。

## 記紀・万葉モデルコース 飛鳥・藤原京から平城京へ 古事記・日本書紀の編纂を旅する【記紀のみち】 季節：通年

現存する我が国最古の歴史書「古事記」「日本書紀」(以下両書を「記紀」と略称)。平城京の時代である、712年に古事記、720年に日本書紀が完成しました。記紀編纂の事業はそれを超えること約半世紀、飛鳥に宮があった時代、天武天皇により着手されたことが記紀に記されています。

飛鳥・藤原の宮都、古事記撰録者である太安万侶ゆかりの「多神社」、古事記の語り部「稗田阿礼」ゆかりの賣太神社、そして平城京へと記紀編纂の道をたどれば、記紀の文面には記されない奥深い歴史の真実に出会うことができるかも知れません。



## 事例2 「大和浪漫回廊 ～万葉集・古墳を巡る～」 道路建設課

- 道路建設課による中和地域周遊キャンペーン事業です。中部・近畿圏のマイカー利用者、主要駅からのレンタカー利用者をターゲットにしたキャンペーン事業である「大和浪漫回廊」の一環として、平成22年度に先駆的に実施されました。
- 同キャンペーンでは、奈良女子大学の監修・協力を得て、明日香・橿原を始めとした奈良県中和地域の6つのエリアにおいて、数多くある万葉歌碑や古墳を紹介する「大和浪漫回廊ガイドブック」を作成し配布したところ、来訪者にエリアの詳細地図・解説を掲載し効率的に周遊できるガイドブックとして活用していただき、たいへん好評でした。また、古墳の概要や基本データを充実させた「古墳カード」も18種類作成し、道の駅等の各ポイントで配布、全種集めるとパーフェクト賞を進呈するなどプレゼントも用意して、来訪者の動機付けとしました。奈良女子大学を始め、県内自治体や道の駅、交通事業者等との連携により可能になった事業と言えます。
- 特に、県の土木部から文化観光局の担当者に対して古墳や万葉歌碑をはじめとした歴史素材についての問い合わせがあり、文化観光局が持っている情報を反映させることで、より利用者に喜ばれるマップや情報発信につなげることができました。歴史素材を活用した、部局横断型の取組みの成功例の1つと言えるのではないのでしょうか。



大和浪漫回廊ガイドブック

### 事例3

## 『記紀・万葉』県民活動支援補助金

ならの魅力創造課

- ならの魅力創造課では、市民団体等が自らの創意工夫に基づき取り組む記紀・万葉に関する事業経費を支援することで、記紀・万葉に関する県民機運の醸成及びイベント等の拡充を図るため、『記紀・万葉』県民活動支援補助金を平成24年度に創設しました。平成25年度は、17団体17事業の応募があり、公開プレゼンテーションと審査の結果、17団体17事業が採択されました。

※補助対象額 1団体あたり (補助対象経費—入場料等収入) × 1/2 上限50万円

このように、市民の自発的な活動を支援することも、行政の大切な役割のひとつです。

平成25年度『記紀・万葉』県民活動支援補助金採択事業一覧

団体名	事業名
小町座	ラジオドラマ なら記紀・万葉ファンタジア「ヤマトタケルと白い鳥」(仮称)
NPOなら・きらめきサポート	「講談で語る奈良の歴史と文化」～なら記紀・万葉～
犬養万葉記念館に協力する会	『犬養孝の取材ノート 奈良・和歌山篇』の発刊
山の辺の道「奈良道」を守る会	万葉歌詠標及び腰掛けの設置事業
一般社団法人 うるわしの桜井をつくる会	勝利のパワースポット事業 「勝利の聖」建立 序幕式及び記念事業 関連事業 子ども相撲大会
特定非営利活動法人 バサラ衆	古事記をテーマとしたダンスユニットによる「記紀・万葉」プロジェクト活性化
EVENT-STATION.	EVENT-STATION.Sta.25 防人の剣 -Sakimori no Tsurugi-
天誅組大和義拳150年記念事業実行委員会	天誅組大和義拳150年記念事業
大和路まほろばウォーク実行委員会	第11回大和路まほろばツデーウォーク
みどりの名所づくりプロジェクト実行委員会	みどりの名所づくりプロジェクト
特定非営利活動法人うぶすな企画	中世遺跡看板設置事業
「記紀・万葉で巡る宇陀」実行委員会	記紀・万葉で巡る宇陀
特定非営利活動法人 寧楽・平城・奈良	「記紀・万葉」フォトコンテストなら100選
歴史フェスティバル実行委員会	第2回おもしろ歴史フェスティバル「歴史を愉しむ！！」
桜井市本町通り・周辺まちづくり協議会	「古代へ誘う」光の道プロジェクト
あいさこいさ祭り 秋の伊勢街道 あかり祭り実行委員会	あいさこいさ祭り 秋の伊勢街道 あかり祭り
「21世紀の智と実践」フォーラム	石上神宮の歴史と古代日本～人づくり・国づくり・これからのコミュニティー～



## 事例5 他県と連携したイベントの実施

民間事業者、行政

●「やまごころ周遊記」は、西日本各地の古代や神話ゆかりの地（9県全43カ所）を訪れ、「やまごころカード」を集めて楽しむカードラリーです。



●西日本高速道路株式会社（NEXCO 西日本）が主催し、

「周遊スポット」のある各県（福井県、奈良県、和歌山県、兵庫県、島根県、鳥取県、愛媛県、大分県、宮崎県）の協力のもと、古事記完成1300年にあたる2012年の4月16日から12月31日まで実施されました。

●イベントでは、各地のカードを集めて懸賞に応募することができ、最も応募条件が難しい「神奈備（かむなび）賞」（西日本の9県43カ所の全カードを収集）の応募が28件、そのほか2つの賞にも合計1615件もの応募があるなど、多くの人に参加いただきました。参加者からは、「神話ゆかりの地をめぐることができ大変楽しかった」「イベントを通じて古事記・古代の知識を深めることができた」などの声が寄せられました。民間事業者及び他県と連携し、広域的な周遊を促した一例です。

富山県収集スポット	大分県収集スポット	愛媛県収集スポット	鳥取県収集スポット	島根県収集スポット	兵庫県収集スポット	和歌山県収集スポット	奈良県収集スポット	福井県収集スポット
M01 市民の森管理事務所 富山県川口成徳町成徳	O01 宇佐神宮 宇佐市南平字2859	E01 道後観光案内所 松山市道後湯之町6-8	T01 古代出雲歴史博物館 法要寺大町町保家 99-4	I01 道の駅神話の里白うさぎ 鳥取市白葉613	H01 伊弉諾神宮内せきれの屋 淡路市東745 伊弉諾神宮内	W01 熊野速玉大社 新宮市野宮1	N01 大神神社 福井県三輪1422	F01 敦賀鉄道資料館 敦賀市南町1-25
M02 青島神社社務所 富山県富山2-13-1	O02 風通乳洞観光センター 臼杵市野津町大字15	E02 多賀神社 宇和島市東江1340	T02 熊野神社前無料体験所 松江市東保寿町保寿 558	I02 とっとり花田園 西谷郡原町藤田110	H02 谷汲神社社務所 淡路市東745 伊弉諾神宮内	W02 龍山神社 和歌山市和山438	N02 橿原考古学研究所附属博物館 橿原市東御町50-2	F02 道の駅若狭おばさま 小浜市松久里2-4-45-2
M03 美々津まちなみセンター 日向市美の津町333	O03 磐生のムラ歴史民俗体験学習館 国東市国東町安国寺 1639-2	E03 島島公園遊楽施設所 松山市北桑江1596	T03 猿蓑神社 粟南市大栗町栗賀260	I03 白壁土蔵群・赤瓦 倉吉市新町1丁目	H03 湯ヶヶがせしー舟渡り大船七 南あわじ市湯島2276	W03 日前宮 和歌山市秋月365	N03 吉野歴史資料館 吉野郡吉野町宮高348	F03 鯖江市まなべの館 鯖江市長寿町1-9-20
M04 天岩戸神社社務所 美津市大字岩戸1073-1	O04 大山神社 今治市大正町東郷3327	E04 大山神社 今治市大正町東郷3327	T04 舌農亭 倉吉市東町三蔵字里 仁多郡奥出雲町三蔵字里	I04 道の駅清流茶屋かわはら 鳥取市東町東郷 837番地	H04 淡路島観光協会 菅原観光案内所 淡路市東郷925-27	W04 丹生都比売神社 伊都郡かつら町上天野 230	N04 一貴神社 新城市森脇伊島田432	F04 熊野神社 丹生郡藤原町藤田113-1
M05 西郷隆盛ガイダンスセンター・このは立像 西郷市大字三毛4841-1	O05 三皇神社 国府市中央市島町606	E05 三皇神社 国府市中央市島町606	T05 国民宿舎千歳丸 淡路市下町2164	I05 道の駅はわい 東郷郡湯梨井町宇野2243	H05 先山千光寺本堂 洲本市上内藤2132	W05 伊太祁尊神社 和歌山市伊太祁尊556	N05 石上神宮 大堰市春吉384	F05 結前和紙の重パピルス館 藤原市新在町98-44

## 事例6

## 地元企業による関連商品の造成 民間事業者

- 記紀・万葉プロジェクトと連動し、地元企業独自の関連する商品・サービスの開発、販売を行ったことで、話題の醸成や売上向上など相乗効果をもたらしています。

**PRESS RELEASE** ホテル日航奈良

2012年3月13日 #12/002

**古事記ガールの“歩く奈良旅”に最適  
「神話めぐり～古事記(ふることぶみ)～」第二話も好評!**

ホテル日航奈良(奈良市三条本町8-1 総支配人 津澤幸生)では、奈良県の「記紀・万葉プロジェクト」に伴い、宿泊プラン「神話めぐり～古事記(ふることぶみ)～」を2011年10月より販売。『第一話 山の辺の道』のプラン実績が約950名にも上るヒットプランとなりました。続いて3月1日(木)～7月31日(火)の期間販売する「第二話 佐紀路(さきじ)」も、予約数がすでに400名を超える勢いとなっています。

“記紀・万葉プロジェクト”は、2012年が『古事記』が完成して1300年、さらに2020年は『日本書紀』が完成して1300年という節目の年にあたり、『古事記』日本書紀編纂の地である奈良県が、これらの文献や奈良県特有の歴史素材を活用し、県内外へ発信していくプロジェクト。(奈良県観光局 ならの魅力創造課) ホテル日航奈良では、このプロジェクトと連動する形で、神話に縁のある場所をホテル特製オリジナルマップを片手にめぐっていただく宿泊プラン「神話めぐり～古事記(ふることぶみ)～」を展開しています。

第一話「山の辺の道」に続き、第二話「佐紀路(さきじ)」は2011年12月から予約開始したところ、大変好評な評判が出しなっています。『佐紀路(さきじ)』は、古事記に登場する人物の古墳が集合している“日本最大級の古墳群”のひとつである佐紀系列古墳群(さきたたなみこみんぐん)や、平城宮跡を巡ることもできるルート。今回のホテルオリジナルマップには、縁の人物の紹介や、意外と知られていない野鳥ウォッチングポイントなども網羅。古墳をめぐって歩くだけでなく、様々な楽しみ方をご提案しています。

第一話同様、予約数が400名を超える人気プランとなっていますが、桜の開花とともにウォーキングに最適な季節が到来することや、雑踏嫌いなことで「古事記ガール」とい言葉も話題になっていることから、今後もプラン利用者が増加すると予測しています。

途このようなプランは従来比較的高年齢層をターゲットにしていましたが、仏像ブームや聖女といわれる層が層層と、若い世代に受け入れられていることから、プランのメインターゲットを30代～50代の女性として企画。実際の利用者データからも、59%が女性、年齢層も30代～50代が78%を占めていることが分かっています。




佐紀系列古墳群オリジナルマップ

**JALHOTELS**

**PRESS RELEASE** ホテル日航奈良

奈良県「記紀・万葉プロジェクト」連動宿泊プラン  
『神話めぐり～古事記(ふることぶみ)～ 第二話 佐紀路』  
数冊マップ片手に神話の舞台めぐり、古事記ガールの奈良歩き♪

◆期間 2012年3月1日(木)～2012年7月31日(火)

◆プラン料金 ※1泊朝食付き+税付込  
1室1名利用の場合 お一人様 9,800円～11,800円  
1室2名利用の場合 お一人様 7,800円～9,800円  
1室3名利用の場合 お一人様 6,800円～8,800円  
1室4名利用の場合 お一人様 6,300円～8,300円  
朝食と和洋バリエーション

◆プラン特典  
①書籍「赤せが観る日本の神様事典」  
～あなたを導く97柱の神々たち～(マナー1室につき1冊)  
②大和茶500mlペットボトル(お一人様につき1本)  
③「佐紀路」オリジナルマップ(お一人様につき1冊)

◆ご希望の方にはボランティアガイドの手配を承ります。  
(事前予約/ご希望の日日前までに申し込みが必要です。)

◆予約方法  
電話(宿泊予約) 0742-35-8831)  
または公式ウェブサイト <http://www.nihonkairyo.jp>

☆以後のシリーズは下記を予定しています。  
第三話 大和三山(2012年秋冬を予定)  
古事記や万葉集などで、歌枕として多く詠まれる、嵯峨山・香良山、耳成山の絶景、神武天皇のゆかりの地や藤原宮跡などをめぐる。

☆なら記紀・万葉ホームページ <http://www.pref.nara.jp/miryoku/naraikikimanyo/>

◎ホテル特設図書について◎  
ホテル日航奈良は、2005年7月1日にワイルドアンテナからリブRARYを開業。300冊の図書、大中小の美合庫、レイトンなどを企画する奈良県最大のブック・雑誌販売店で、県立中央図書館や奈良女子大学図書館とも連携している。読者の声から選ばれる書籍や雑誌を企画・販売している。

住所 630-8122 奈良市三条本町8-1 電話 0742-35-8831 郵政番号 590-0122  
URL <http://www.nihonkairyo.jp>

(報道機関様へのお問い合わせ先)  
広報担当 高野 梨子 (タカノリコ) Tel. 0742-35-8831 Fax. 0742-35-6868 E-mail: [pr@nihonkairyo.jp](mailto:pr@nihonkairyo.jp)  
写真掲載のご希望があればデータをお送りいたします。ご連絡はご返信しませんが、




1スライダー付ダブルルーム

**JALHOTELS**

ホテル日航奈良「神話めぐり～古事記(ふることぶみ)～」



啓林堂書店  
「記紀万葉関連本特設コーナー」



奈良県トラック協会  
「オリジナルステッカー」



奈良女子大学・ホテル日航奈良  
「万葉御膳～奈香味(なごみ)」

- 担当する施策・事業によって歴史素材の活用方法は異なると思われるかもしれませんが、ここにあげた事例をヒントにして、記紀・万葉のそれぞれの施策への活用の方法を探してみてもいいでしょうか。観光関連施策以外にも、県産品のPRや公共施設の利用率向上など、さまざまな展開の可能性があるとと思います。

## 5. 記紀・万葉を取り扱う際の留意点

- 記紀は、我が国の古代史や上代文学の重要な研究対象であることはもちろんですが、神話や天皇家の歴史をめぐるさまざまな学説があり、特に第二次大戦前には皇国史観による国威発揚に用いられた経緯もあって、戦後は広く一般の人びとに親しまれるものではありませんでした。『万葉集』にも戦前は「軍歌」に使われた歌があったりします。したがって、行政として記紀・万葉を「扱う」際には十分留意し、「ニュートラルな立ち位置」を堅持する必要があります。
- 以下に、行政施策として記紀・万葉を扱う際に留意すべきポイントを、聞き取り調査での有識者からのご指摘をもとにとりまとめました。

Point

1

### 記紀・万葉を多くの人に知ってもらう。

学校教育の場で古典に触れる機会が減り、現代の日本では記紀・万葉集を読んだことがない人が多数派になっています。まず、多くの人に記紀・万葉集の内容やその面白さを知ってもらわなければなりません。記紀・万葉集の中には、一般の人々にも「意外に面白い」と思ってもらえる要素がたくさん含まれており、それらをうまく取り出して提供する工夫が必要です。

Point

2

### 『古事記』『日本書紀』『万葉集』の違いを踏まえる。

『古事記』は口伝、『日本書紀』は中国を意識した官撰史書、『万葉集』は歌集であり、成立プロセスや編纂目的も異なります。3つの書物の違いを踏まえ、それぞれ独立したテキストとして扱う必要があります。どのテキストをベースにするのかによって、同じエピソードを扱っていても内容が異なり、人名や地名等の漢字表記のしかたも違います。テキストの違いを発見することも記紀・万葉を楽しむ魅力のひとつです。

Point

3

### 歴史的事実と神話・伝承を区別する。

記紀・万葉集では歴史的事実に基づくと推測できる記述と創作された架空の物語が一続きのストーリーになっているため、史実とフィクションをはっきり分けて、混同しない(されない)ようにする必要があります。ただし、フィクションについてもイメージ源となった史実や事物が存在しており、「この伝承はこの場所(できごと)をもとにつくられた」ということが言える場合もあります。

Point

4

### 記紀・万葉集以外の文献にも目配りする。

記紀・万葉集以外にも日本の古代を知るために欠かすことができない文献があり、対象を記紀と万葉集に限定せず、『風土記』や『続日本紀』などまで広げる必要があります。記紀・万葉集から派生した中・近世以降の創作物まで視野に入れれば、さらに展開の可能性は広がります。

Point  
5

### 特定の見解や学説に偏らずニュートラルな立場をとる。

学問分野や研究者によって記紀・万葉に対する基本的な考え方や研究方法が異なり、なかには対立するものもあります。専門家の意見を聞く場合にも、それぞれの学問上の立脚点を押さえておく必要があります。行政としては現時点での「定説」を踏まえ、複数の有力説がある場合には特定の説にくみせず、ニュートラルな立場をとることが肝要です。

Point  
6

### 全国の記紀・万葉ゆかりの自治体と連携する。

記紀・万葉集は奈良県で編纂された書物ですが、神話の中心は出雲や日向、万葉歌は全国に分布するなど、必ずしも「記紀・万葉といえば奈良県」というわけではありません。

記紀では島根県、宮崎県、長野県、福井県、万葉では富山県、鳥取県など、奈良県以外にも記紀・万葉にゆかりの深い府県があり、近隣府県から国外まで含め、さまざまな連携可能性があります。

Point  
7

### 記紀・万葉の世界をイメージできるツールを用意する。

古代の遺跡・遺物には一般の人々が理解し楽しむための要素に乏しく、記紀・万葉の世界を実感してもらうためにはさまざまな補助的ツールを提供する必要があります。

地図やガイドブック、現地の案内板の整備のほか、イラストやCGなど記紀・万葉の世界のイメージをふくらませるビジュアルな情報提供も効果的です。

Point  
8

### 県民が参加して楽しめるものにする。

県内各地域での取組みを支援し、住民が主体となった「県民発」の事業にする必要があります。

「記紀・万葉」を通して、県民に地域の文化や歴史に対して関心を持ってもらうための「きっかけづくり」が行政の役割です。

## 6. 記紀・万葉プロジェクト検討委員会、同 推進チーム会議

- 基本構想及び本基礎知識集の策定にあたっては、平成 22 年 2 月に県庁内の推進機関として「記紀・万葉プロジェクト検討委員会」及び同委員会の実務組織である「記紀・万葉プロジェクト推進チーム会議」を設置し、調査・検討を行っています。推進チーム会議では、様々な部局の担当者による情報・意見交換を行っています。

### ◎記紀・万葉プロジェクトでは――

#### ■これからも継続して基礎知識情報を提供します。

伝承及び『風土記』『懐風藻』などの奈良とのゆかり情報については、今後も収集を続けます。そのほか、参考になる書籍などについても、時期を改めて情報提供していきます。

#### ■皆さんからの情報提供をお待ちしています。

皆さんがお住まいの地域やこれまで行ったことがある地域などに、「記紀・万葉」情報はありますか。もし知っている情報があれば、ぜひ、私たちにお知らせください。

例えば・・・

- 県内にこんな記紀・万葉ゆかりの場所がある
- 地域にこんな伝承が残っている、自分が祖父母などから聞いた昔話がある など

「記紀・万葉」情報をお寄せください！

### ◎編集後記◎

私たちはこの基礎知識集を「できるだけコンパクトにまとめる」ことを目指して編集しています。少しでも「記紀・万葉」に興味を持っていただけたでしょうか。お目通しいただいた感想を、ぜひお寄せください。

また、「より深く知りたい」「施策に歴史を活かすヒントについてもっと調べたい」と思われた方には、より詳しいご説明や資料をご提供したいと考えておりますので、お気軽にお問い合わせください。

◇問い合わせ先：記紀・万葉プロジェクト推進チーム会議  
(事務局：ならの魅力創造課)